

うどんこ病^{びょう}

病原菌名 *Erysiphe pisi*

発生条件

胞子の発芽適温は22～24℃。日中は暖かで乾燥、夜間は温度が下がり、風通しが悪い高湿度環境で多発する。窒素肥料の多施用による収穫期の遅れや日照不足は発病を助長する。



初期病徴

はじめは下葉や日陰の部分から発生し、上葉へ進展する。汚白色の小斑点から白粉状の病斑を生じる。



被害後期

全体にうどん粉をまき散らしたようになる。草勢が衰えるころから病斑上に小黑粒(子のう殻)を生じる。